

# 今どき家庭の 子育て事情

家庭と仕事を両立してより豊かな人生を送ろうとしている区内に住む男女平等実践中の二組の家庭を紹介しましょう。

## ●●● 仕事も育児も二人は平等 山本さんご家族 ●●●

山本家には4歳、2歳、0歳の3人の子もがいます。「大人の数より子どもの数が多いのはきつい」と言いながら、義明さん(32歳)と千花さん(31歳)夫婦は二人三脚で、目下、育児の真っ最中。食品添加物のメーカーと自動車会社と職種は異なるが二人とも開発・研究の研究者なのです。

第三子の誕生で育児中の千花さんは今年4月から職場復帰の予定。第一子と第二子誕生のときに育児を2回(2ヶ月と5ヶ月)取った義明さん(後押ししたのは千花さんでしたが、「それを理解できる素地が自分にあった」と義明さん。

自営業の実家の近くにコンビニが

出現して売り上げが下がったことを「くやしいじゃない」と母親が言うのを聞いたとき、「女性でも仕事に負けることを悔しいと思うのだ!」と感じた義明さん。それがきっかけで、当時、高校生だった義明さんのそれまでの「女性は働かないもの」という労働観が変わっていったそうです。

### 当たり前でない男性の育児

同じ大学で知り合い結婚した二人は「一人ひとり生き方が違って当然。それを選べない男性や社会はおかしい」という点で意見が一致している。二人には男性の育児は「当然の帰結」だったが、男性の育児は「当たり前でないらしい」と、育児を取ったとき義明さんはあらためて実感したそうです。

毎朝、保育園に子どもたちを連れて行くのは義明さん。フレックスタイムと時短という会社の制度をフル活用して早朝出勤する千花さんの役目は保育園のお迎え。女性の家事・育児を男性がサポートするのではなく、対等な役割分担ができるのも仕事や報酬でも二人には差がないという考えが双方にあるからかも。



### 難しいこともあるが...

男女共同参画では、男性の方が「選択の機会がない」と義明さんには映るが、千花さんは、「女の覚悟が足りない」と考えている。

そんな二人が家事育児を共有することそれぞれに何かを得、何かを切り捨てたのかもしれない。会社でも前例がなかったため「男

を降りるくらいにの気概が必要だった」と言う義明さんだが、独身時代に家事は一切しなかった。しかし、「父親の育児に興味を持たざるを得ない」と、育児中に本で料理の基本をマスターし、地域の子育ての集まりにも積極的に参加している。学べて「よかった」と義明さんは今思っている。

出産・育児と仕事の両立で「期間の長い研究テーマに取り組みなくなった」と言う千花さんも、今は家族に囲まれた幸せな時間を楽しんでいる様子。

「男である、女であるというのはまぎれない事実なのに、男は仕事、女は家庭というイメージに過度に結びつけられ、それが観念として固定化してしまうのは問題」。だからこそ教育が大事なのですが、「家庭教育には家庭環境も含めた多様性があるので、男女共同参画の推進においては学校教育の役割が大きいと思う」と義明さんは言います。